

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 6年 4月 15日

事業所名 アットスクール鹿島田

	チェック項目	どちらともいえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ		
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	80%	20%	・児童の状態に合わせてマットの配置などを工夫して、スペースが狭くならないように配慮している。	・今後も動線を確保した上で圧迫感のない空間づくりに取り組んでいく。
	② 職員の配置数は適切である	20%	80%	・常勤以外の職員の配置もある為、情報共有を行ったうえで支援にあたっている。	・今後も職員間での連携を図り、適切な支援を提供できるようにしていく。
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	60%	40%		・事業所内のバリアフリー化の配慮は適切である。駐車場が遠いことに関しては、車を停める位置の工夫をしていく。
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	40%	60%		・適宜業務改善の為の話し合いを行っているが、今後はより詳細に振り返りを行う。
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%		・保護者の意向を業務改善に繋げていることを、広く職員に周知していく。
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%			
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	20%	80%		
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	40%	60%		・適宜研修の機会を設けているが、スタッフの要望を網羅はできていない。今後も事業所に必要な研修を検討して実施していく。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	60%	40%	・面談内容を元に会議内で各専門職が意見を出し合い、アセスメントを行って作成している。	・今後もアセスメントを適切に行う事の出来るよう、意見交換を行っていく。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	20%	60%	20%	・適宜児童に応じた適切なアセスメントツールを使用していく。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	60%	40%		・ミーティングにて職員全体で話し合いを行い、活動内容を決定している。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	80%	20%		・通年通してのテーマ決めをすることで、内容が固定化することを回避している。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	40%	40%	20%	・課題を設定しているが実施できていないことがある為、今後は職員間で連携して実行していく。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	80%	20%		・子どもの状況に応じて作成している。職員全体に情報共有をして実施していく。
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%		・支援スケジュール表を用いて支援内容や役割分担を確認している。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	40%		・支援の後に必ず打ち合わせを行い記録を残している。今後は連携記録表を活用して情報共有を行っていく。
関係機関や関係者	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
	⑱ 定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%		・今後も定期的にモニタリングを行い、計画の見直しをしていく。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	40%	60%		・地域交流についてはコロナ渦という事もあり実施できていなかった。今後は地域に開けた施設を目指していく。
	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	60%	40%		・事前に打ち合わせを行い、準備をした上で参加している。
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	100%			
㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%				

	チェック項目	どちら			工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	とも いいな い	いいえ		
保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	20%	80%			・必要に応じて行っている。今後も情報共有や相互理解に努めていく。
	㉑ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	40%	40%			・今後必要に応じて支援内容等の情報を提供し、児童のスムーズな事業所移行をサポートする。
	㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	40%			・専門機関と連携をして、適宜助言や研修を受けていく。
	㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	20%	20%	60%		・コロナ渦であったこともあり、機会を設けられていなかった。今後は保護者の希望も踏まえた上で検討していきたい。
	㉔ (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	40%	20%	40%		・協議会等へ積極的に参加していく。
	㉕ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%				
	㉖ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	40%	40%	20%		・必要に応じて職員間で打ち合わせをした上で、保護者への助言を行っている。ペアレント・トレーニングについては研修等を通じて職員の知識を深めていく。
保護者への説明責任等	㉗ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%				
	㉘ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%				
	㉙ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	40%	60%			・コロナ渦ということもありできていなかった。今後は保護者同士の連携を深めるような支援をしていきたい。
	㉚ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%				
	㉛ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	80%	20%			・定期的に会報誌にて情報発信をしている。今後も会報誌内で活動の内容等を発信していく。
	㉜ 個人情報に十分注意している	100%				
	㉝ 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%				
非常時等の対応	㉞ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		60%	40%		・個人情報保護の観点やコロナ渦という事もあり、実施できていなかった。今後は機会があれば、検討していきたい。
	㉟ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40%	60%			・マニュアルに関する保護者への周知を徹底していく。
	㊱ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%				
	㊲ 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%				
	㊳ このような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	80%	20%			・組織的な決定や説明、書面への記載をすることが出来ている。
	㊴ 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%				
	㊵ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%			・事業所内での事例の共有ができています。今後も行っていきます。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。